

## 工事費内訳書に関する入札無効の例示

次の例示に相当する入札については、無効としますので、入札の際には必ず入札書と工事費内訳書に不備等がないか確認してください。

### 【例示】

- ① 工事費内訳書が入札書と同封されていない場合
- ② 工事費内訳書の一部が未提出の場合
  - \* 工事費内訳書が複数ページ必要な場合に必要ページ数分が不足
- ③ 工事費内訳書に誤字、脱字等があり意思表示が不明瞭である場合
- ④ 工事費内訳書に発注者名又は記名押印がない場合（電子入札で提出する場合は押印は任意）
  - \* 代表者による入札の場合は、代表者の記名押印が不足
  - \* 代理人による入札（委任状提出）の場合は、代理人の記名押印が不足
- ⑤ 工事費内訳書に記載すべき内容に漏れがある場合
  - \* 発注者名、入札者名（代理人も含む）、件名等が記載されていない
  - \* 事前に指定した積算項目が記載されていない
- ⑥ 工事費内訳書の金額に欠落または誤りがある場合
  - \* 積算項目の金額が欠けている
  - \* 工事費内訳書の合計金額（工事価格）が積算項目の合計金額と一致しない
- ⑦ 工事費内訳書の合計が入札書に記載の金額と異なる場合（10万円未満の端数処理を除く）
- ⑧ 工事費内訳書に一括値引きを計上している場合（積算項目毎に値引きが計上されている場合を除く）
- ⑨ 他の工事の工事費内訳書が提出された場合
- ⑩ 「材料費」、「労務費」、「法定福利費の事業主負担額」、「建退共制度の掛金」及び「安全衛生経費」の5項目について、全ての記載がない工事費内訳書の提出があった場合（令和8年10月1日以降に入札公告又は指名通知をする建設工事から対象）